

植生史研究関連文献リスト1988年

千野裕道．板橋区早瀬前遺跡の木器類の樹種について．「東京都板橋区新河岸三丁目早瀬前遺跡発掘調査報告書」，333-345．新河岸三丁目早瀬前遺跡調査会．

東京都の平安時代の木器樹種．針葉樹と落葉広葉樹からなり，柱材はクリが多く，これにコナラ類クヌギ類が続く．

遠藤邦彦・菱田 量・小杉正人・鈴木 茂・長田敏明．草加市における産出化石と古環境．「草加市史自然・考古編」，139-167．

草加市周辺部の1万年前以降の古環境総合解析（花粉分析を含む）．

遠藤邦彦・五十嵐八枝子・隅田まり・鈴木敬治・宮田雄一郎．北海道東部，野付海岸茨散で得られた過去15000年間の古環境．「日本における沖積平野・沖積層の形成と第四紀末期の自然環境とのかかわりに関する研究」（井関弘太郎編），45-52．

最終氷期末期の茨散下部泥炭層と完新世後半の茨散上部泥炭層の花粉分析と大型植物化石．最終氷期末期の花粉化石群集はカラマツ属(グイマツ)を高率に含む．約6000年前以降のハンノキ属とシダ類の優勢な植生が出現やがてコナラ属優勢に移行し，約2400年前以降は高層湿原が発達した．

Fuji, N. Secondary community of palaeovegetation around the Middle Neolithic Mawaki Site, Noto Peninsula, Japan. Proc. Japan Acad., 64, ser. B : 265-268.

真脇遺跡出土の木化石(依田・鈴木，1986)・大型植物化石・花粉化石から植生を議論，花粉ダイアグラムは気候帯ごとにまとめられている．縄文時代前期中葉に人間の影響で自然植生からアカマツとコナラ属の二次植生に変化した．

藤 則雄．国際的 Pleistocene/Holocene boundary との対比のための若狭三方地方の更新世後期～完新世堆積物の花粉学的研究．金沢大学教育学部紀要，自然科学編，37:59-76．

福井県美浜の久々子湖東岸，上中盆地のポーリング試料の花粉分析．ダイアグラムは，温量指数を基に木本類を寒冷系・冷涼系・北海道帯系・温帯系・暖温帯系に分けたグループごとの百分率で示されている．詳細な分類群ごとの分解ダイアグラムが示されていないのが気にかかる．

藤井昭二・奈須紀幸編．海底林 黒部川扇状地入善沖海底林の発見を中心として．163pp．東京大学出版会，東京．

1980年5月に入善沖の大陸棚上でダイバーが海底林を発見して以来数年間の調査・研究の進展と海底林の研究成果の地球科学史上の意義を説く．最後の10章では国内・外の埋没林・沈水林が紹介されている．

藤下典之．佐々木アサバタケ遺跡から出土したヒョウタン仲間 *Lagenaria siceraria* Standl. の未熟種子について．「佐々木アサバタケ遺跡II，県営公害防除特別土地改良事業に係る埋蔵文化財調査報告書」，29-30，p1.55．石川県立埋蔵文化財センター．

種子の大きさについて言及．本遺跡の種子は大型である．

藤原宏志．八田中遺跡におけるプラント・オパール分析．「八田中遺跡」，99-110．石川県立埋蔵文化財センター．

弥生時代前期末にイネが栽培されていた確証は得られなかった．ヒエが栽培されていた可能性を否定できない．

藤原宏志．プラント・オパール分析による農耕跡の追究．「弥生文化の研究2 生業」，117-123．雄山閣出版，東京．

分析法および縄文時代のイネ，弥生時代の稲作についてのこれまでの知見をまとめる．

長谷義隆．南部九州後期新生代の地史と古環境．熊本大学教養部紀要自然科学編，No.23:37-82．

- 南部九州の後期新世代の環境変遷を、植物化石群集を柱に、堆積物や堆積盆の性格も加味して整理・復原し、気候変化曲線や古地理図を作成している。
- 林 昭三。寺田遺跡出土木製品の樹種。「寺田遺跡、北九州市埋蔵文化財調査報告書第70集」、103-107、図版Ⅱ, pls.1-4。(財)北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室。
- 針葉樹はスギが最も多く広葉樹はクスノキ・カシ類・ヒサカキなどであった。用途と樹種との関係を他の遺跡の報告と比較している。
- 林 昭三。椎土遺跡出土木炭の樹種。「椎土遺跡・塚越貝坪遺跡発掘調査概要」、41-45, pls.1-3。小杉町教育委員会。
- 炭窯と精錬炉から採取した木炭184点を、17種に同定した。炭窯ではクリが多く、精錬炉ではコナラが約半数をしめる。
- 兵庫県教育委員会。自然遺物。「兵庫県文化財調査報告書第61冊、長谷貝塚」、22-24。兵庫県教育委員会。
- 縄文後期からはノブドウ・トチノキ、平安時代の土器とともにコメ・ムギ・ウリ・サンショウの種類類が出土した。
- 市河三次・海野芳聖・斎藤克彦。山梨県北巨摩郡高根町野添遺跡に於ける微細遺物、特に植物性炭化遺物に関する研究。山梨県女子短期大学紀要、21:57-81。
- 縄文時代の住居址の炭化物の非常に詳細な平面的および垂直的分布を検討。クリやクルミのほか不明の炭化物が含まれている。
- 五十嵐八枝子。氷河時代からの森林の変遷。「北海道・森と木の文化」(札幌学院大学人文学部編)、1-45。
- 北海道の植生史をいくつかの研究例を紹介しながら概観する。
- 五十嵐八枝子。北海道における晩氷期以降の気候変遷—花粉化石群集からの解析—。「日本における沖積平野・沖積層の形成と第四紀末期の自然環境とのかかわりに関する研究」(井関弘太郎編)、31-38。
- 新たに加えられた北海道北部サロベツ原野と東北部野付郡の資料と既報の成果にもとづいて、北海道の晩氷期以降の新しい花粉帯(HLG-I, II, III, HR-I, II, III, IV, V)を設定し、気候変遷を明らかにした。
- 五十嵐八枝子・外崎徳二・吉田充夫。十勝層群本別・足寄層の花粉化石層序。地球科学、42(5):277-289。
- 鮮新統本別層、足寄層および池田層最下部の花粉分析をもとに、下位からPicea-Tsuga-Alnus帯とFagus-Alnus帯の2花粉帯を区分し、さらにそれぞれ下位からI~IIIの3亜帯に区分した。従来の研究、北海道他地域、東北日本との結果の比較を行っている。
- 叶内敦子。根ノ上遺跡・ローム層の花粉分析。「東京都板橋区根ノ上遺跡発掘調査報告」、295-299。東京都住宅局・根ノ上遺跡発掘調査会。
- 立川ローム層と遺跡内の黒色土層の花粉分析。検出花粉はごく微量だった。
- 叶内敦子。福島県吾妻山・亜高山帯湿原の表層花粉の特徴と亜高山帯植生の変遷。駿台史学、No.73:1-17。
- 亜高山帯湿原である馬場谷地・谷地平・景場平の表層花粉組成をもとに、谷地平のNT(沼沢パミス、約5000年前)以上の泥炭堆積物と放射性炭素年代6370±130years B.P.の埋没泥炭層の花粉分析から、6000年前頃の温暖期を示唆する。
- 叶内敦子。福島県南部・矢の原湿原堆積物の花粉分析による最終氷期の植生変遷。第四紀研究、27(3):177-186。
- 最終氷期に2回の寒冷期を確認した。
- 金原正明。遺跡における花粉群集の基礎的問題について。天理大学学報、NO.157:303-318。
- 堆積物による花粉群集の特性を、天理市星塚遺跡・桜井市芝遺跡を例に考察する。堆積環境の違いに起因する地域的な群集と局地的な群集を示唆し、堆積物の性格の認識の必要性を強調する。
- 金原正明。第1・4号住居址内出土の焼木。「考古学調査研究中間報告13 奈良県天理市所在別所裏山遺

- 跡・豊田山遺跡発掘調査報告－弥生時代後期の耕地性集落」, 42. 埋蔵文化財天理教調査団。
 2210±85 years B.P. と測定されたシノキ属木炭のほか, 照葉樹林要素数種の同定結果。
 笠原安夫. 作物および畑雑草種類。「弥生文化の研究2 生業」, 131-139. 雄山閣出版, 東京。
 分析・同定方法, 分析・同定の結果, および畑作物とイネの渡来経路・伝播を概説。
- 笠原安夫・藤沢 浅. 東海市トトメキ遺跡(縄文晩期)のドングリ貯蔵穴より出土した植物種実の同定。
 「トトメキ遺跡」, 26-31. 図版35~48. 愛知県東海市教育委員会。
 縄文時代晩期の貯蔵穴。アブラナ類が含まれている。大きな種実は渡辺 誠が検討。
- 笠原安夫・藤沢 浅. 佐々木アサバタケ遺跡(平安~中世)より出土の植物種実の同定。「佐々木アサバ
 タケ遺跡II, 県営公害防除特別土地改良事業に係る埋蔵文化財調査報告書」, 7-28, pls.4-54. 石川
 県立埋蔵文化財センター。
 焼畑作物の種実が多数出土。
- 河内晋平・疋田貞良・五十嵐八枝子・目次英哉・西川純一・野地正保・高橋伸幸・Galvanche, Marta
 Lucia, V.・保田信紀. 大雪火山御鉢平湖成層の電気探査と花粉分析。第四紀研究, 27(3):165-175。
 約30000年前に形成された大雪火山御鉢平カルデラの湖成層を花粉分析から4花粉帯に区分する。
 現在よりも寒冷的な気候が推定される。
- 北川芳男・五十嵐八枝子・吉田充夫・興水達司. 北海道石狩低地帯周辺の更新統。地質学論集, No.30:13-
 23。
 北海道石狩低地帯の野幌丘陵を中心に, 北部の石狩丘陵, 馬追丘陵南部の更新統の層序と編年を総
 括する。
- 古環境研究所. プラント・オパール分析調査報告書。「岩手県軽米町角子久保VI遺跡発掘調査報告書」,
 116-128. 岩手県文化振興財団・岩手県埋蔵文化財センター。
 十和田a火山灰より下位の畑状遺構の分析。イネおよびキビ族(ヒエやアワ)が栽培されていた可
 能性があるとされた。
- 粉川昭平. 穀物以外の植物食。「弥生文化の研究2 生業」, 112-115. 雄山閣出版, 東京。
 バラ科の果樹としてウメ・モモ・スモモ・アンズ・ナシ, ウリ科の果菜類, マメ類についてのごく
 簡単な概要。
- 近藤錬三. 十二遺跡土壌の植物珪酸体分析。「長野県北佐久郡御代田所在鑄師屋遺跡群十二遺跡発掘調査
 報告書」, 377-383。
 4試料の分析。植物珪酸体の組成表と顕微鏡写真あり。
- 近藤錬三. 植物珪酸体(Opal Phytolith)からみた土壌と年代。ペドロジスト, 32(2):189-203。
 植物珪酸体による植生復原を簡単に説明する。さらに植物珪酸体による年代測定法として, 植物珪
 酸体の放射性炭素年代・電子スピン共鳴年代・熱ルミネッセンス年代などの直接法と, 植物珪酸体の
 組成からの古気候復原からの推定・蓄積年率による推定・風化度による推定などの間接法をあげ解説
 する。
- Kondo, R., Sase, T. & Kato, Y. Opal phytolith analysis of andisols with regard to
 interpretation of paleovegetation. "Proceedings on the Ninth International soil
 Classification Workshop Japan 1987" (eds. D. I. Kinloch et al.), 520-534。
 現生および埋没土壌層のプラントオパール分析による古植生の復原。
- 近藤 務・五十嵐八枝子・嵯峨山 積. 北海道静川台地の中~上部更新統-特に最終間氷期中の寒冷期お
 よび相対的海水準変化の検討-。地質学雑誌, 94(5):343-359。
 静川台地のポーリング試料の層相(テフラ)・花粉化石・珪藻化石の研究。花粉分析から7花粉群集
 帯を設定, 最終間氷期中の寒冷期を認めた。
- Kuroda, T., Arita, M. & Furukawa, H. Palynological study of the surface sediments of Sagami
 Bay, with special reference to the dispersal pattern of pollen and spores and their
 transportation mechanism. Bull. Coll. Sci. Univ. Ryukyus, No.46:77-121。

表層堆積物中の花粉胞子の分布から花粉胞子の拡散のパターンとその輸送のメカニズムを考察した。

前田保夫. トトメキ遺跡の花粉分析からみた古植生. 「トトメキ遺跡」, 39-43. 愛知県東海市教育委員会.

縄文時代晩期～古墳時代にかけて群集組成はあまり変化しない. シイ・カシ林に二葉マツを加えた照葉樹林要素の強い森林の中に, コナラやハンノキなどの落葉樹が混成していたと推定した.

真鍋健一・鈴木敬治. 東北地方の非海成鮮新-更新統の層序と対比. 地質学論集, No.30「日本の第四紀層の層序区分とその国際対比」:39-50. 日本地質学会.

大型植物化石ならびに花粉化石による生層序も検討されている.

松葉千年. 蓮華寺層最上部よりヒメバラモミの産出. 名古屋地学, No.50:29-34.

松下まり子. 水域における花粉の運搬と堆積. 植生史研究, No.3:3-11.

花粉の動態研究に関する総説. 播磨地方の実例をあげている.

松下まり子・前田保夫・松本英二・松島義章. 新宮(紀伊半島)および室戸岬の完新世植生史-とくにシイ林の成立について. 日生態誌, 38:1-8.

浮島の森湿原での花粉分析. 完新世初期にすでにシイの極相林が成立.

Matsushita, M. & Sanukida, S. Holocene vegetation history around Lake Hamana on the Pacific coast of central Japan. The Quaternary Research(Tokyo), 26(4):393-399.

浜名湖の完新世堆積物の花粉分析により3つの森林期を設定.

松谷暁子. 長野県の縄文中期諸遺跡から出土したエゴマ・シソ. 「長野県史, 考古資料編, 全1巻(4)遺構・遺物」, 1063-1067. 長野県史刊行会.

長野県の縄文時代中期のエゴマ・シソ類種実の集成. SEM写真が添えられている.

南木睦彦. 東京都板橋区根ノ上遺跡から産出した大型植物遺体. 「東京都板橋区根ノ上遺跡発掘調査報告書」, 273-284, 図版I~IV. 東京都住宅局・根ノ上遺跡発掘調査会.

弥生時代の住居址から炭化したイネ, オオムギなどが産出.

南木睦彦. 東京都板橋区早瀬前遺跡から産出した大型植物遺体. 「東京都板橋区新河岸三丁目早瀬前遺跡発掘調査報告書」, 346-357. 新河岸三丁目早瀬前遺跡調査会.

東京都の古墳時代前期と平安時代を中心とする遺跡. 平安時代の井戸からクリ・モモ・イネ・オオムギ・コムギ・アサ・ソバ・マメ類・ナス・ヒョウタン類・ウリ類などを産出.

南木睦彦. 八田中遺跡から産出した大型植物遺体と古環境. 「八田中遺跡」, 111-126. 石川県立埋蔵文化財センター.

湿地性の草本の変遷から弥生時代の河道の環境変遷を推定. 栽培植物ではメロン類・ヒョウタン類・イネ・ソバ・アサが産出.

Minaki, M., Noshiro, S. & Suzuki, M. Hemiptelea mikii sp. nov. (Ulmaceae), fossil fruits and woods from the Pleistocene of central Japan. Bot. Mag. Tokyo, 101:337-351.

日本の更新世から産出するハリゲヤキ属(Hemiptelea)の果実および木材化石から新種ヒメハリゲヤキを設立した.

南木睦彦・辻 誠一郎・能城修一・鈴木三男・吉川純子・橋屋光孝. 袋低地遺跡の縄文時代以降の古植生. 「袋低地遺跡-自然科学編1-」, 437-441. 東北新幹線赤羽地区遺跡調査会・東北日本旅客鉄道株式会社.

東京都赤羽の遺跡. 花粉化石, 大型植物化石, 木材化石を合わせた縄文時代以降の総合的な植生復原を行なっている.

百原 新・南木睦彦. 大型植物化石群集のタフオノミー. 植生史研究, No.3:13-23.

大型植物の化石形成過程に関する研究の総説.

守田益宗・崔 基龍. 日本産ヤマモモ属の花粉形態. 日本花粉学会会誌, 34(1):11-18.

花粉形態からヤマモモ・ヤチヤナギの識別の可能性を検討.

Morita Y. & Miyoshi, N. Palynological study of the genus *Alnus* (Betulaceae) in Japan. *Ecol. Rev.*, 21(3):183-199.

ハノキ属の花粉形態比較.

妙見山麓遺跡調査会. 溝10T2出土の木製品, 骨, 種子類. 「神戸市北区長尾宅原遺跡宮之元地区の調査(1986年)」, 58-78.

種子類はオナモミ等の雑草, ウルシ・エゴノキ・ノイバラ等のバイオニア植物, モモ・スモモ・アンズ・ブドウ・クリ・マクワウリ等の栽培植物, 祭儀(?)用のミヤマビャクシン等が出土した.

中村 純. 花粉. 「弥生文化の研究2 生業」, 123-131. 雄山閣出版, 東京.

イネ花粉の識別, 堆積, 具体的解析例を概説.

楡井 尊. 駿河湾東部, 伊豆半島宇久須沖より得られたコア試料の化石花粉群集. 平岡環境科学研究所報告, 1:39-47.

海底表層堆積物の花粉化石群集による花粉分帯と塚田(1981)の花分帯との対比を行い生層序対比の可能性を示した.

楡井 尊・佐藤 武. 日本海中部, 飛鳥海盆のコア試料の花分化石群集. 東海大学紀要 海洋学部, 26:27-37.

水深445mの底質コア(長さ475cm)の花分分析. 3帯の花分帯を設定.

能城修一・鈴木三男. 赤城遺跡の出土木材. 「埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第74集, 川里工業団地関係埋蔵文化財発掘調査報告, 赤城遺跡」, 473-482, pls.97-106.

台地の竪穴状遺構から出土した遺構?・加工材93点を同定した結果, クリ・エノキ属が多かった.

能城修一・鈴木三男. 袋低地遺跡の木材遺体の樹種. 「袋低地遺跡 -自然科学編1-」, 405-436. 東北新幹線赤羽地区遺跡調査会・東日本旅客鉄道株式会社.

後背湿地の遺跡から出土した776点の自然流木を同定. 縄文時代前期から後期にかけての植生を復原. 材の平面分布図あり.

能城修一・鈴木三男. 浜野川遺跡群出土木材の樹種. 「千葉県浜野川遺跡群」, 101-121, pls.23-35. 千葉県土木部・千葉県教育委員会・千葉県文化財センター.

同遺跡の自然木455点, 加工木269点の同定結果とその顕微鏡写真.

小椋純一. 近世以降の京都周辺竹林の変遷-都市周辺の自然景観に関する一考察-. 京都精華大学紀要木野評論, No.19:25-41.

地形図・航空写真・絵図・文献にもとづく京都周辺の竹林の変遷.

大嶋秀明・高橋利彦・小倉洋志・荒川竜一. 栃木県東部, 茂木町における約3000年前の植物遺体群集. 栃木県立博物館研究報告書, No.6 八溝の自然(II)植物:29-38.

約3000年前の木材・種子果実・花粉化石の同定結果からイヌブナ優占の森林を復原.

岡田文男. 杭・木製品の樹種同定. 「トトメキ遺跡」, 32-35. 愛知県東海市教育委員会.

古墳時代前期の杭群など. クヌギが多くマツ(二葉)も含まれる.

岡田文男. 入江内湖遺跡行司地区出土木製品の樹種の調査結果について. 「入江内湖遺跡(行司地区)発掘調査報告書」, 53-57, pls.86-88.

木製品328点から19樹種を同定. スギが最も多く115点, ついでヒノキ(95点), アカガシ亜属(92点)の順. 顕微鏡写真あり. ミズキとしたものはちょっとあやしい.

大森博雄・柳町 治. ブナ林帯上限および下限の温度領域と更新世末期から完新世中期にかけての夏期気温変化. 第四紀研究, 27(2):81-100.

山岳地域の気温推定法について吟味し, ブナ林帯上・下限がどのような温度領域にあるかを検討. それらに基づき各地の花分層序中のブナ林帯の上・下限の通過時期の気温を求め, 更新世末期以降の気温変化を検討.

大西郁夫. 中国地方の第四紀後期植物・花粉群-その3. 鳥取市口細見の泥炭層-. 鳥根大学地質学研究报告, No.7:1-4.

- 生竹軽石と関金軽石に挟まれた5~6万年前の泥炭層の花粉分析。
大西郁夫・渡辺正巳・内田律雄。松江市，西川津遺跡の材化石。山陰地域研究（自然環境），4:65-79。
- 弥生時代前期から中期にかけての自然木は，アカガシ亜属・イスノキが優占し，多様な樹種が含まれる。花粉組成との類似・相違点についても論じている。
- 大迫靖雄。住居址出土の木炭。「高畑赤立遺跡発掘調査報告書，蘇陽町文化財調査報告書第1集」，12-13。蘇陽町教育委員会。
- 弥生時代後期の住居址から出土した2点の木炭はクリとカヤ。
- 大迫靖雄。曾畑貝塚低湿地遺跡から出土した木質遺物に関する一考察。「熊本県文化財調査報告第100集，曾畑」，217-231。
- 縄文時代前期の流木は2点がイヌマキ，1点がコナラ。篋材料にはイヌビワ・ケヤキ・アカガシ亜属・アケビが利用されていた。
- バリノ・サーヴェイ株式会社。根ノ上遺跡炭化材同定報告。「東京都板橋区根ノ上遺跡発掘調査報告書」，285-286，図版V-VI。東京都住宅局・根ノ上遺跡発掘調査会。
- 弥生時代後期の住居址炭化材などで，ほとんどがコナラ属クスギ節。
- バリノ・サーヴェイ株式会社。武蔵伊興における自然科学的分析。「武蔵伊興」，70-90。足立区伊興遺跡調査会・足立区教育委員会。
- 花粉分析・珪藻分析・鉍物分析。引用文献などに不正確さが目立ち，図表も著しく読みづらい。遺跡調査会および分析請負会社の仕事に対する精神が問われる。
- バリノ・サーヴェイ株式会社。浜野川遺跡群の確認調査にともなう花粉分析報告。「千葉県浜野川遺跡群」，122-131，pls.36-37。千葉県土木部・千葉県教育委員会・千葉県文化財センター。
- 2カ所でそれぞれ層厚2.5m位を分析。サンプル材は26個と22個。花粉ダイアグラム2葉，顕微鏡写真がプレート2枚分あり。HM-I，II，III，IVa，IVb帯に区分。
- バリノ・サーヴェイ株式会社・橋本眞紀夫。土壌分析。「東京都板橋区新河岸三丁目，早瀬前遺跡発掘調査報告書」，275-332。新河岸三丁目早瀬前遺跡調査会。
- 東京都の古墳時代前期および平安時代を中心とする遺跡。花粉分析，プラント・オパール分析，珪藻分析を実施。平安時代の稲作の可能性を指摘。
- 斉藤昌宏・鈴木三男・能城修一。佐渡演習林ハンノキダテより出土した埋れ木について。新潟大学農学部演習林報告，21:61-65。
- 5500-6000年前の地滑りに起因すると思われる埋れ木2点はカツラとクロベだった。
- 佐藤敏也。弥生のイネ。「弥生文化の研究2 生業」，97-111。雄山閣出版，東京。
- 弥生期・古墳期出土米の詳細な計測結果。
- 佐藤敏也。早瀬前遺跡出土の炭化米粒について。「東京都板橋区新河岸三丁目早瀬前遺跡発掘調査報告書」，358-371。
- 東京都の平安時代等の米粒。無毛，無芒，長粒型を20%以上含み，小粒か極小粒が多い。
- 島地 謙・林 昭三。古殿遺跡出土木製品の樹種。「京都府遺跡調査報告書第9冊，古殿遺跡」，98-105。京都府埋蔵文化財調査研究センター。
- 古墳前期の木製品。158点で10の樹種を同定。スギが圧倒的に多く84.8%を占める。顕微鏡写真あり。
- 島地 謙・林 昭三。深江北町遺跡出土木器の樹種。「深江北町遺跡」，109-111。兵庫県教育委員会。
- 奈良時代の木器11点はほとんどヒノキ。
- 島倉巳三郎。薄磯貝塚出土炭化木の樹種。「薄磯貝塚，いわき市埋蔵文化財調査報告書第19冊」，572-577。
- 縄文時代後晩期・弥生時代中期の貝塚から出土した炭化木は，モミ・ケヤキ・クリ・カエデ類？・サクラ類だった。
- 島倉巳三郎。茶毘館遺跡出土の炭化物。「青森県埋蔵文化財調査報告書第110集，茶毘館遺跡」，239-

240, 336-337.

古代～中世の遺構からコナラ・ヤマウルシ?・クリ・ブナ・ケヤキ?・ヤナギ類?・モミの炭化材が出土。未炭化のアスナロ・ススキ類・テンニンソウ属?も報告。

島倉巳三郎・藤 則雄. 能登半島真脇遺跡からの加工木の包含層と樹種. 金沢大学日本海城研究所報告, 20: 1-32.

1986年の報告書(能都町教育委員会「真脇遺跡」)ではページ数の制限で十分に記述できなかった加工木の樹種と層位について再録し, 植生について言及している. 一部材の顕微鏡写真あり.

白石建雄・竹内貞子・林 信太郎・林 聖子. 秋田県男鹿半島で発見された始良Tn火山灰. 第四紀研究, 27(3):187-190.

後期更新統箱井層中の始良Tn火山灰前後の泥炭の花粉化石組成表を含む.

相馬寛吉. 猪苗代湖形成以降の植生変遷. 地学雑誌, 97(4):113-119.

猪苗代湖周辺の植物化石の記録をまとめ, 植生変遷を中期更新世, 最終水期前期, 中期, 後期, 更新世の5つの時期に便宜的に分けて復原している.

相馬寛吉・辻 誠一郎. 植物化石からみた日本の第四紀. 第四紀研究, 26(3):281-291.

日本第四紀地図作成の過程でつくられた下末吉期と立川期(約2万年前)の大型植物化石・花粉化石群集の組成図4枚が含まれる. 第四紀古植物の現状と問題点を浮き彫りにした1例である.

杉山真二・松田隆二・藤原宏志. 機動細胞珪酸体の形態によるキビ族植物の同定とその応用. 考古学と自然科学, No.20:81-92.

キビ・ヒエ・アワおよびその近縁野生種の機動細胞珪酸体の形態の基礎的研究. 青森県垂柳遺跡の試料も検討しヒエ属と同定している.

鈴木敬治. 安沢・岩の沢・菅生の泥炭層産大型植物遺体. 「馬場壇A遺跡II, 東北歴史資料館資料集23」, 81-82. 東北歴史資料館・石器文化談話会.

論文としては第四紀研究第28巻(1989)の鈴木敬治・竹内貞子「中～後期更新世における古植物相—東北地方を中心として」に含まれている.

鈴木敬治・真鍋健一. 磐梯・猫魔火山群と猪苗代湖盆の基盤岩層について. 地学雑誌, 97:21-28.

メタセコイア属を含むなどの花粉組成(相馬寛吉が分析)から, 磐梯・猫魔火山群南麓域では下部更新統(背灸山層)が分布しているとした.

鈴木敬治・那須孝悌. 日本の鮮新—更新統の植物化石による分帯. 地質学論集, No.30「日本の第四紀層の層序区分とその国際対比」:169-180.

大阪・新潟・会津の3地域から産出する植物化石群集を用いて日本の鮮新—更新統を大きく4つに分帯. いくつかの分類群の進化系列や消滅層準について重要な議論がなされている.

鈴木三男. 過去2万年の平地林の変遷. 砺波散村地域研究所研究紀要, 5:1-10.

主に北陸と関東の花粉と木材のデータより両地域の平地林の変遷をまとめている.

鈴木三男. 佐々木アサバタケ遺跡出土箆織物使用材の樹種. 「佐々木アサバタケ遺跡II, 県営公害防除特別土地改良事業に係る埋蔵文化財調査報告書」, 31, pl.56. 石川県立埋蔵文化財センター.

箆織物の材はヒノキであった.

鈴木三男・能城修一. 群馬県勝保沢中ノ山遺跡出土炭化材の樹種. 「勝保沢中ノ山遺跡I」, 180-192. 群馬県教育委員会.

赤城山西麓の台地. 縄文前期～江戸時代の炭化材72点を同定. コナラ節が多い.

鈴木三男・能城修一. 新保遺跡出土自然木の樹種とそれによる古植生復元. 「新保遺跡II・弥生, 古墳時代集落編—関越自動車道(新潟線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第18集—」, 435-453, pls.190-211. 群馬県教育委員会・群馬県埋蔵文化財調査事業団.

縄文中期から平安時代までの自然木1556点を同定した結果, 温帯ないし暖帯の落葉広葉樹林であった. 関東平野の他の遺跡との比較もしている.

鈴木三男・能城修一. 田名遺跡出土木製品の樹種の調査結果について. 「田名遺跡, 三方町文化財調査報

- 告書第8集」, 56-70, pls.23-28. 福井県三方町教育委員会.
スギ材の圧倒的優占がみられる。顕微鏡写真あり。
- 鈴木 茂. 花粉化石からみた草加市及びその周辺の高植生。「草加市史自然・考古編」, 115-138.
中川低地の立川期以降の花粉分析. トウヒ属・マツ属単維管束亜属・ハンノキ属優占期, コナラ亜属優占期(11000年前), コナラ亜属・エノキムクノキ属優占期(～7500年前), アカガシ亜属・コナラ亜属優占期(～2000年前)など6つの時期を認識する。花粉化石の記載あり。
- 高原 光・伊藤孝美・竹岡政治. 約3000年前のスギカミキリ被害材と当時の森林環境. 日林誌, 70(4):143-150.
福井県三方町岩屋の埋没樹含有泥炭層の花粉分析あり。ハンノキ属を含むスギの天然林の存在(約3000年前)。
- 高橋利彦. 中筋遺跡出土炭化材の樹種。「中筋遺跡 第2次発掘調査概要報告書, 渋川市発掘調査報告書第18集」, 42-47. 群馬県渋川市教育委員会.
6世紀前半に火砕流により埋没した51点を10種類に同定した。
- 竹内貞子. 岩の沢および菅生における泥炭層の花粉分析。「馬場壇A遺跡Ⅱ, 東北歴史資料館資料集23」, 77-80. 東北歴史資料館・石器文化談話会.
荷坂火砕流と柳沢火山灰間の泥炭層, 前期～中期更新世の清水層の上部および清水層と荷坂火砕流間の泥炭層の花粉分析。
- 竹内貞子. 馬場壇A遺跡の43層の花粉分析。「馬場壇A遺跡Ⅱ, 東北歴史資料館資料集23」, 83. 東北歴史資料館・石器文化談話会.
- 竹内貞子・鈴木敬治. 植物遺体化石群集と花粉化石群集から復元される古植生と地史的变化。「馬場壇A遺跡Ⅱ, 東北歴史資料館資料集23」, 84-86. 東北歴史資料館・石器文化談話会.
前期～中期更新世の清水層の花粉分析, 安沢・岩の沢・菅生の泥炭層産大型植物遺体分析から古植生を議論する。
- 外山秀一. 高松平野における花粉分析ならびにプラント・オパール分析その1 - 太田地区周辺発掘調査第13地点。「弘福時領讃岐国山田郡田岡比定地域発掘調査概報Ⅰ, 弘福時領讃岐国山田郡田岡関係遺跡発掘調査事業に伴う調査概要」, 85-97. 高松市教育委員会.
地表下280cmまでの分析。花粉化石群集帯を4帯, プラントオパール群集帯を6帯設定。コナラ亜属からアカガシ亜属優占への変遷がみられる。
- 外山秀一. 中道遺跡から出土した縄文土器のプラント・オパール胎土分析. 帝京大学山梨文化財研究所報, No.6:7.
縄文晩期後葉に位置づけられる氷Ⅰ式土器片からイネのプラント・オパールを多数検出。
- 外山秀一. 六条遺跡における花粉分析ならびにプラント・オパール分析。「中主町内遺跡分布調査(Ⅱ)概要報告書, 中主町文化財調査報告書第15集」, 29-34. 中主町教育委員会.
滋賀県の野洲川右岸の遺跡. 弥生時代後期後半以降の群集。
- 椿坂恭代. 北海道における初期農耕関連資料Ⅱ - 走査電子顕微鏡による植物遺存体資料Ⅰ - . 12pp. 北海道大学文学部基礎文化論講座人類学研究室.
北海道大学構内のサクシュコトニ川遺跡(9世紀, 擦紋時代)のアワ, キビを含む種実. 比較のための現生種も含め, きわめて美しいSEMによる写真が示されている。
- 辻 誠一郎. 花粉分析にみる人間と自然. 週刊朝日百科 日本の歴史別冊 歴史の読み方, No.3 考古学への招待:51-52.
火山噴火が生態系に及ぼした影響および遺跡内の局地的事象の解明に花粉分析が有効であることを説く。
- 辻 誠一郎. 環境変動史における画期と土壌. ベドロジスト, 32(2):103-104.
完新世後半における環境変動史上の2つの画期についての土壌学的検討の必要性を指摘。
- 辻 誠一郎. 関東中・南部における完新世後半の台地周辺の古環境。「日本における沖積平野・沖積層の

形成と第四紀末期の自然環境とのかかわりに関する研究」(井関弘太郎編), 74-78.

中野区北江古田遺跡, 練馬区尾崎遺跡, 北区中里遺跡, 北区袋低地遺跡, 川口市赤山陣屋跡遺跡の地質層序・花粉化石群集を検討・再検討し, 縄文海進後に2度の下刻による小谷の形成と埋積, これらに対応する植生の変化を示した.

辻 誠一郎. 関東平野の3地点から得たスギ属の多い後期更新世花粉化石群集. 植物地理・分類研究, 36(2):83-88.

新たな南関東・北関東の資料は大磯丘陵・下末吉台地から記載された吉沢-II植物化石群集帯に層的にも花粉化石群集組成の上でも対比された.

辻 誠一郎. 袋低地遺跡の縄文時代以降の花粉化石群集. 「袋低地遺跡 -自然科学編1-」, 337-365. 東北新幹線赤羽地区遺跡調査会・東日本旅客鉄道株式会社.

縄文時代以降の低地縁地の植生史を古い方からA・B・C・Dの4期に区分した. 主要花粉化石の記載あり.

辻 誠一郎. 縄文と弥生 自然環境. 季刊考古学, No.23:35-38.

海面変化・地質層序・植生史にもとづいて, 縄文時代以降現在までには4つの大きな画期があるが, とくに第3の画期(縄文中期)は意義が大きく, 弥生はこの画期以降の延長線上にある.

Tsukada, M. Glacial and Holocene vegetation history: Japan. "Vegetation History" (eds. Huntley, B. & Webb, T. III.), 459-518. Kluwer Academic Publishers, Netherlands.

日本列島の氷期から完新世にいたる植生変遷を総括.

塚田松雄・中村 純. 第四紀末の植生史. 「日本植生誌IX 北海道」(宮脇 昭編), 96-130. 至文堂, 東京.

北海道の最終氷期最盛期の植生, 温帯性落葉広葉樹林の時間的な発達過程とその機構, 後氷期後期の寒冷化に対するエゾマツ, トドマツ林の反応, 海岸地帯の湿原植生の発達を論ずる.

渡辺 誠. 貯蔵穴出土の大型植物遺体. 「トメキ遺跡」, 22-25, 図版33,34. 愛知県東海市教育委員会.

縄文時代晩期の貯蔵穴. マツ属, オニグルミ, コナラ属, トチノキ, エゴノキが産出. コナラ属は2種類あり, クヌギまたはアベマキと, ミズナラまたはコナラ. 小種実は笠原ほかが検討.

渡辺正巳. 松江市西川津遺跡出土木製品の樹種について. 「朝酌川河川改修工事に伴う西川津遺跡発掘調査報告IV(酒崎地区2)」, 244-260, pls.76~81. 島根県教育委員会.

弥生時代前期から古墳時代前期の木製品349点の同定結果. 針葉樹5種, 広葉樹はクリ・スダジイ・コナラ節・アカガシ亜属の4種のみでたいへん単純. 顕微鏡写真あり.

渡辺正巳・中海・宍道湖自然史研究会. 中海・宍道湖の自然史研究-その8. 中海・宍道湖より得られた柱状試料の花粉分析-. 島根大学地質学研究報告, 7:25-32.

柱状試料の花粉分析と以前の結果を総合し, 中海・宍道湖の変遷史と史実との対応を示す.

山田悟郎. K482遺跡およびK483遺跡の植生環境について. 「K482遺跡K483遺跡, 札幌市文化財調査報告書」, 61-64, 121. 札幌市教育委員会.

続縄文時代の古植生復原. オニグルミの堅果の産出.

山田悟郎. 石川1遺跡の古植生について. 「函館市石川1遺跡, (財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書第45集」, 1-6. (財)北海道埋蔵文化財センター.

縄文時代中期中葉の住居跡と旧石器が出土したグリッドの断面の花粉分析と大型植物化石分析.

山田悟郎. 日進2, 31遺跡と更新世堆積物から産出した花粉化石について. 「名寄市日進2, 31遺跡-道々美深・名寄線凍雪害防止工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書, 名寄市文化財調査報告書IV」, 45-68. 北海道名寄市教育委員会.

花粉変遷から風運層は最終氷期初頭(本郷層), 多寄層は更新世前期に対比される.

山田悟郎・赤松守雄・渡部真人・三野紀雄・中田幹雄. 積丹半島に分布する瀬棚層相当層と第四系から産出した花粉化石について. 北海道開拓記念館調査報告, No.27:3-12.

- 2つの花粉帯を認識し、針広混交林から針葉樹林への植生の移行を推定。花粉産出表あり。
- 山形 理・山野井 徹・立川正久・中野聡志。琵琶湖底質の花粉学的研究。山形大学紀要(自然科学), 12(1):87-95.
- 山口浩司・高原 光・竹岡政治。比良山地における森林変遷(2)ー古女郎ヶ池湿原の花粉分析ー。京都府立大学農学部演習林報告, No.32:1-10.
- 比良山地の標高1060mに位置する古女郎ヶ池湿原周辺では、4600年前頃にはスギを中心とした冷温帯林が成立していた。その後、気温の低下に伴いブナを中心とする林にかわり、さらに低地を中心とした人為的な影響がみられる。
- Yamanaka, M. The Size-frequency and number of pore of pollen grain in Japanese species of genus *Carpinus*. Mem. Fac. Sci. Kochi Univ. Ser. D (Biol.), 9:21-24.
- クマシデ属のサイズ分布、発芽口の数から *C. tschonoskii* が判別できることがわかった。
- 柳井清治・雁沢好博。北海道駒ヶ岳山麓における化石林の発見とその意義。地球科学, 42(1):25-28.
- 尻無川下流の海岸斜面の炭化木、降下軽石に被われ馬蹄型火口岩屑なだれ堆積物の表層に立っている。樹種はトウヒ属、トウヒ属またはカラマツ属(大谷 諄同定)。年代測定をもとに火山灰層序の再検討を行っている。
- 安田喜憲。5000年前の気候変動と古代文明。科学, 58(8):468-476.
- 5000年前の気候事件と人類文明史の転換をむすびつける。日本列島についても、その時期の気候の冷涼・湿润化の証拠をあげ、縄文文化の転換を示唆する。
- 安田喜憲。縄文時代の環境と生業ー花粉分析の結果から。「畑作文化の誕生 縄文農耕論へのアプローチ」(佐々木高明・松山利夫編), 25-63。日本放送協会。東京。
- 照葉樹林帯の鳥浜貝塚・福岡市四箇遺跡・唐津市菜畑遺跡、ナラ林帯の富山県小泉遺跡と十二町湯遺跡・埼玉県寿能泥炭層遺跡・青森県亀ヶ岡遺跡の花粉分析結果と人間活動との関連を議論する。
- Yonebayashi, C. Studies on the local and regional pollen components in the Kakuda Basin, Miyagi Prefecture, northeast Japan, in relation to the original vegetation pattern. Ecol. Rev., 21(3):201-220.
- 宮城県角田盆地の地域植生を花粉により復原。
- 吉井亮一。立山室堂平における湿原堆積物についての花粉分析。日本花粉学会会誌, 34(1):43-53.
- 現在ハイマツ帯に位置する立山室堂平の標高2440m付近の植生は、約6000年前以前は乾性の草原と低木林だったが、その後湿地化がすすみハイマツ林も形成される。その後、再び乾燥化がすすみハイマツもやや縮小して現在にいたる。
- 吉川純子・南木睦彦。袋低地遺跡の大型植物遺体。「袋低地遺跡ー自然科学編1ー」, 367-404。東北新幹線赤羽地区遺跡調査会・東北日本旅客鉄道株式会社。
- 縄文時代以降の大型植物化石群集帯が設定された。縄文後期からナラガシワが、縄文中期頃から大型のクリが産出するなど植物地理学的に興味をひく。産出化石の記載、モモ・オニグルミ・クリの計測あり。
- 吉崎昌一。縄文農耕から擦紋農耕へ。「鎌木義昌先生古稀記念論集, 考古学と関連科学」, 105-122, 図版1。鎌木義昌先生古稀記念論文集刊行会。
- 北海道の栽培植物の報告が集成されており、北海道西半分では農耕の出現は縄文時代前期と判断される。その後の農耕の発展についても述べられている。
- 吉崎昌一。苫前町香川6遺跡出土の植物種子。「苫前香川6遺跡発掘調査報告書」, 171-185。苫前町教育委員会。
- 北海道の擦紋文化期からの雑穀類の産出。炭化種実の94%が栽培種。アワ・キビが多くオオムギ・シソ属なども含まれる。

1985補遺

Tsuji, S. & Minaki, M. Plant fossil assemblage of the Late Pleistocene Shimosueyoshi Age in Yokohama, central Japan. *Jpn. J. Ecol.*, 35:133-137.

横浜市西部の下末吉層・下末吉ローム層の花粉化石群集・大型植物化石群集を記載し、大磯丘陵の吉沢-I, II植物化石群集帯が横浜にまで広がりをもつことを明らかにした。

辻 誠一郎・吉川昌伸・吉川純子・能城修一. 前橋台地における更新世末期から完新世初期の植物化石群集と植生. *第四紀研究*, 23:263-269.

約10000年前にマツ属単維管束亜属・トウヒ属優占の針葉樹林からコナラ亜属優占の温帯広葉樹林へ急変したことを花粉化石・大型植物化石・木材化石群集から明らかにした。

1986補遺

永野 巖. 埼玉の風土と森林. 「新編埼玉県史別編3自然」, 253-455.

第8節平地林の自然史で、埼玉平野の古植生、森林の生態的特性、河畔砂丘林、屋敷林と社寺林、雑木林に分け、既報の資料、未公開資料、古文書にもとづいて詳述する。

小元久仁夫. 猪苗代盆地南部より産出した埋没林の放射性炭素年代と古環境. *東北地理*, 38(2):154-157.

猪苗代湖南岸の郡山市湖南町の水田下から掘り出された大量の埋没樹(大部分は直立)がサワラで、1780±110と1890±110 years B.P.の年代を得ている。サワラ林の存在から当時の湖水面が2m以上低かったと推定する。同定の根拠は示されていない。

1987補遺

Crawford, G.W. and Yoshizaki, M. Ainu ancestors and prehistoric Asian agriculture. *Journal Archaeological Sci.*, 14:201-213.

北海道の擦紋時代サンクシュコトニ川遺跡の分析結果。オオムギ・コムギ・キビ・アワ・イネ・アズキ・ケツルアズキ・ウリ類・シソ類・アサが含まれる。コムギは各地(パキスタンの遺跡なども含む)の試料と比較すると著しく小粒である。

加藤国雄. 一碧湖湖岸堆積物中の花粉. *静岡地学*, No.56:5-11.

マツ属・スギ属・ヒノキ属花粉の出現率と現存植生との関係を検討した。

岡田 緑. 花粉分析. 「岩手県野田村根井貝塚発掘調査報告書, 岩手県立博物館研究調査報告書第3冊」, 88-93. 岩手県立博物館.

外山秀一. 旧耕地面の認定ならびに古環境の復原に関する調査. 「高松市太田地区周辺遺跡詳細分布調査概報, 太田第2土地区画整理事業にともなう遺跡詳細分布調査」, 99-103.

吉崎昌一、苫前町香川三線遺跡と擦紋文化－主として生業からのアプローチ－。「苫前町香川三線遺跡発掘調査報告書」, 212-223. 苫前町教育委員会。

擦紋遺跡からの炭化種実、オオムギ・キビ・アワが含まれる。

○おことわり 第5号に掲載した「植生史研究関連文献リスト1987年」の中で木材に関する文献の一部は京都大学木材研究所木材生物部門が中心になり収集されたものを見せていただきました。ここにご協力を感謝いたします。

事務局報告

○第5回植生史研究会シンポジウムの報告

テーマ：「人と植生の交渉史」

プログラム：

11月17日（土）

事務局報告・趣旨説明

1. 吉崎昌一：古代遺跡からの栽培植物の検出 （座長：山田昌久）
2. 藤下典之：出土種子からみた日本古代におけるウリ科植物
－その種類、渡来、伝播および利用－ （座長：車崎正彦）

討論（司会：車崎正彦・辻 誠一郎）

11月18日（日）

3. 山田昌久・鈴木三男・能城修一：縄文時代から古代にかけての木材の利用史
－器種の変遷と樹種の選択 （座長：千野裕道）
 4. 辻 誠一郎：植物化石からみた人と植生の交渉史 （座長：谷川章雄）
 5. 大場達之：現在の植生から見た植生の過去と未来 （座長：鈴木三男）
- 総合討論（司会：谷川章雄・鈴木三男）

1990年11月17・18両日、千葉県立中央博物館において表記のシンポジウムを開催しました。参加者は両日で90名近くになり、これまでにない盛況ぶりでした。考古学領域からの参加者が多かったのは、テーマが人間の生業や人間をとりまく環境に直接関係していたためと言えるでしょう。受付開始直前まで事務局会議を開いていたことや、受付その他の役割分担が明確でなかったことなど、事務局側の不手際が目立ちましたが、担当者以外の方々の応援や博物館の方々の多大の協力によって、意義深いシンポジウムになったことを感謝いたします。次号の植生史研究に記録が掲載されますので、ここではシンポジウムの内容については触れませんが、懇親会やその後の二次会、さらにシンポジウム終了後の恒例の反省会の様子を報告しておくことにいたします。なお当日はB4版で48枚に及ぶ資料集が実費500円で配布されました。

懇親会は宿泊所でもあった千葉県職員会館で盛大に開かれました。参加者は55名でした。千葉県立中央博物館の館長である沼田真先生に乾杯の音頭をとっていただきましたが、そのお話の中で、植生史研究が本当に目指している内容が雑誌「植生史研究」にまだ表れていないという指摘や、植生史研究の英語訳 Historical Botany はまったく違った意味でおかしいといった指摘がありました。まったくもっともな指摘であったと思われます。植生史研究とはどのようなものなのか、それは大変重要なことですが、関連す